昭和47年３月31日第三種郵便物認可（毎月１回25日発行）福井県医師会だより　第625号　平成25年６月25日発行

福井県医師会 だより

第６２５号　平成25年（2013）７月

山気冷冷　　　福井市　竹越　忠美

表紙写真説明：**山気冷冷**　　　福井市　竹越　忠美

羽黒山、月山、湯殿山は出羽三山と呼ばれ、1400年以上前から神々を祀る霊山として偉容を誇っている。樹齢1000年の爺杉と国宝五重塔を過ぎると、樹齢300～600年の杉並木に自然の力を感じながら2446段の所々に盃、瓢箪や蓮の花などが描かれた石段を踏破し、往時を偲びながら心身ともリフレッシュした旅でした。

醫縫録

福井県内科医会会長就任にあたって
―世相と医療制度―

福井県内科医会会長　野　村　元　積

平成25年４月より福井県内科医会会長に就任致しました。会長という重責を仰せつかりその責任の重大さを痛感しています。福井県内科医会では地域住民や先生方に少しでも役立つような活動を行っていきたいと存じますので御支援、御協力宜しくお願い申し上げます。

福井県内科医会は現在270名以上の会員を擁し、福井県の医会の中では際立って大きな医会です。臨床内科学は全ての実地臨床の基礎となりますので、内科を専門とする人達ばかりでなく、他科の先生方も数多く入会され、積極的に活動されております。このため他科との連携をより密にし、文字通り地域医療の核となる必要があると思っています。

福井県内科医会は、（1）臨床内科学の生涯研修と研鑽（2）地域医療への貢献（3）会員相互の親睦と利益擁護を掲げて活動しており、これら事業を達成するため三つの部会を設けています。即ち、学術部会、地域医療部会、広報・IT部会です。

学術部会では毎月学術講演会を主催していますが、さらに内科臨床懇話会を内科医会の大きな事業として位置づけ活性化させることにしました。当懇話会は昭和42年以来500回を数える日本でも有数の症例検討会ですが、同懇話会の症例をホームページに掲載・保存し、会員の臨床内科学の生涯研修に役立てもらおうと企画しています。多くの先生方が活用されるようお願い申し上げます。

さて、国民の健康、福祉を守ることは国の根幹事業でありますが、昨今いささかその根幹が危うくなってきています。ひとつの原因は一部住民の過度な要求やそれらを擁護するマスメディアに阿いて、場当たり的な制度設定に終始していることにあります。例えば放射性物質の健康被害問題です。当初は国際放射線防護委員会の勧告をもとに、国も『年間20mSVを目標にして、長期的には1mSVまで下げる』と目標値を定めていましたが、一時の市町村の感情的要求から除染目標値は当初より年間１mSV以下に引き下げられました。除染目標値の２mSVと１mSVで健康被害にどれだけ差がでるのか、一般住民の何人に健康被害が出たのか等について科学的な詳細は全く表出されていません。地球上に注がれる放射線量が年間数mSVもあることを考慮すれば２mSVと１mSVの除染設定差による健康被害は誤差範囲にもならないことは自明の理です。また1mSVへの除染はいつまでに終わるのか、どれくらいの費用が掛るのかも明確にされていません。非現実的な場当たり的設定値でも一旦決まると変更はさらに困難です。現実的な問題は放射線被爆を恐れて住民避難をしている方々の健康被害です。避難所生活における肉体的、精神的苦痛は多大なものと思われます。放射能汚染に対する啓蒙活動と帰還に向けて被災者の生活再建にもっと目を向ける必要があります。

このような場当たり的考え方は、現在の在宅医療問題にも当てはまります。

時代は猛スピードで少子高齢化社会を迎え、人口構造だけでなく人々の幸福感、社会に対する要求の質、要求の度合いも変わってきています。家族・地域の繋がりは薄れ、所謂個人主義が謳歌しつつあります。法律も積極的に個人の主権を強く擁護し、親子、夫婦間でもその連帯性が薄れていく仕組みとなっています。このような中、終末期医療費軽減だけの目的で、在宅医療制度の推進と銘打って『老後も住み慣れた地域社会の中で可能な限り家庭を中心とした日常生活の場で』といっても、空々しいものです。もっと根本的に家族とは何か、何が幸福なのかを教育から見直し、行き過ぎた個人主義を法律や経済学も含めて排除する仕組みを考えなければ、形骸化した在宅医療にしかならないと考えています。本音の議論が必要な時期にきています。